



〒422-8033
 静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
 電話(054)282-1111
 1か月(朝夕)2,900円(税別) 50円
 ◎静岡新聞社2010
 浜松総局 浜松市中区旭町11-1
 フレスター内
 電話(053)455-3355
 東部総局 沼津市魚町1
 サンフロント内
 電話(055)962-0380

ひと日和

今様。ペット事情 ①

愛する犬、猫の行く末に思いを



老犬と戯れる白井さん。静岡市清水区小河内

政治や社会、経済がいかに混乱しようが、多くの国民は真しに規範を守り、日々の暮らしに懸命に取り組んでいる。各分野で汗を流す人たちの生の声を拾い、閉塞(へいそく)した社会に明るい材料を提供したい。「ひと日和」がそんな応援歌になれば。

ペットにまつわる話題が最近、相次いで新聞をにぎわした。埼玉県飯能市の元町議による犬猫の火葬トラブルと将棋の元名人の野良猫餌付け訴訟。静岡県内にも同様の問題があるのではないかと、県や市町に問い合わせたが、飯能市のようなひどい事例はなかったものの、ペット絡みの課題も徐々に見えてきた。

山あいの静岡市清水区小河内。国道52号沿いに立つ民家が任意団体「日本ドッグホーム協会」。名前が示す通り犬と猫の駆け込み寺だ。周辺2カ所と合わせ、飼い主が亡くなったたり、入院したりして世話が困難になった老犬や猫約230匹が静かに余生を送る。

事務局を預かるのは白井昭夫さん(62)。静岡市内で犬の美容院を営んでいた十数年前のこと。高齢の飼い主が犬の世話を依頼してきた。犬好きの旦那さんに先立たれ、残されたのが大型2匹、中型1匹の犬。餌代だけでも月十数万円近く。息子は犬嫌い。本人も入退院を繰り返す身で、途方に暮れていたという。

運営は個人や法人の寄付に頼っているが、白井さんの持ち出しも既に億単位とか。なぜそこまで入れ込むのか。飼い主にペットを飼う責任について知ってもらいたいからと昭夫さん。さらに尋ねると、双子として生まれ、養子に出された自身の身の上と、主人を失った犬や猫とをなぜか重ね合わせてしまう、と打ち明けた。

「ペットのふんの処理にどれだけ税金が使われているか。ペット嫌いの人も間接的に負担しているという自覚が飼い主にはもっと必要だ」元名人が餌付けしたのは飼ってはいけない場所。動物愛護と言いがらルールを守らなければ虐待をも誘発し、犬や猫のためにもならない。

最後まで面倒を見られるのか。老犬、老猫に囲まれて暮らす白井さんの言葉だけにさすがに重い。どんなに愛されたペットも死ねば法律上はただのごみ。動物愛護管理法が対象とするのは生きている動物だ。ただ、高齢化社会の影はそのペットにも及び寄る。生き死にを含めた包括的なペット新法が必要ではないか。

白井さんは法律の整備とともに、飼い主が資金を出し合い、ペットの老後の安心を買う新機関設立を願う。「ペットを愛しているなら、その行く末にもっと想像力を働かせるべきです」。ペットを飼う身としては何とも耳が痛い。

(このシリーズは編集委員・掛井史朗が担当します)